

パブリックコメントで頂いた提案について

# パブリックコメントで頂いた貯水池掘削の提案について

■ 中ノ島の掘削の提案については、既設ダム（岩屋ダム、阿木川ダム）の貯水池掘削との組み合わせにより必要量を確保し、コスト比較から現在立案している対策案2「ダム再開発（かさ上げ）」により検討を進めます。

- ・中ノ島の掘削については、確保できる容量が新規利水に必要な量の約1/13（約480万m<sup>3</sup>）となり、既設3ダムの貯水池掘削との組み合わせにより、必要量を確保。
- ・かさ上げについては、既設3ダムのかさ上げにより、必要量を確保。

【概算コスト：6,900億円】

【概算コスト：2,400億円】

## 【位置図】



□貯水池掘削対象ダムの諸元

| ダム名   | 形式     | 集水面積                 | 湛水面積  | 有効貯水量                  |
|-------|--------|----------------------|-------|------------------------|
| 岩屋ダム  | ロックフィル | 1,035km <sup>2</sup> | 426ha | 150,000千m <sup>3</sup> |
| 阿木川ダム | ロックフィル | 82km <sup>2</sup>    | 158ha | 44,000千m <sup>3</sup>  |
| 牧尾ダム  | ロックフィル | 73km <sup>2</sup>    | 247ha | 68,000千m <sup>3</sup>  |

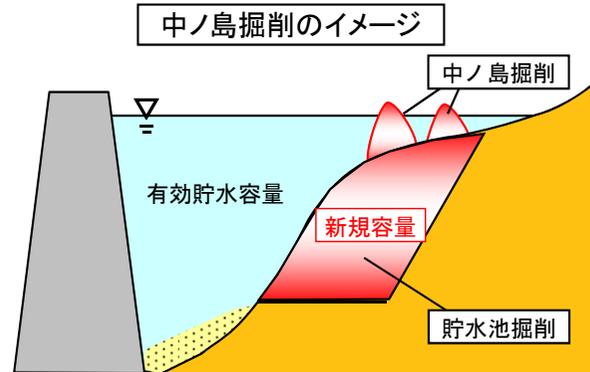
□かさ上げ対象ダムの諸元

| ダム名  | 形式  | 集水面積                 | 湛水面積  | 有効貯水量                 |
|------|-----|----------------------|-------|-----------------------|
| 笠置ダム | 重力式 | 2,301km <sup>2</sup> | 109ha | 6,475千m <sup>3</sup>  |
| 大井ダム | 重力式 | 2,055km <sup>2</sup> | 141ha | 9,250千m <sup>3</sup>  |
| 秋神ダム | 重力式 | 83km <sup>2</sup>    | 73ha  | 16,976千m <sup>3</sup> |

※ダム諸元の表示は、四捨五入値

## 【頂いた提案】(中ノ島掘削+貯水池掘削)

■ 既設ダム（岩屋ダム、阿木川ダム）貯水池内の中ノ島を掘削し、既設3ダムの貯水池掘削との組み合わせにより、必要量を確保。



### ● 必要量確保の基本的な考え方

- ・中ノ島の掘削により確保できる容量は約480万m<sup>3</sup>。
- ・中ノ島を有する岩屋ダム・阿木川ダムを貯水池掘削。
- ・湛水面積・有効貯水容量が大きく、効率的な掘削が可能となる既設ダムを選定し、組み合わせ。
- ・岩屋ダム、阿木川ダム、牧尾ダムを選定。

※コストには、工事期間中における既設ダムの発電・利水運用や関係者との調整等は含まず。

### ■ 必要量

約6,430万m<sup>3</sup>

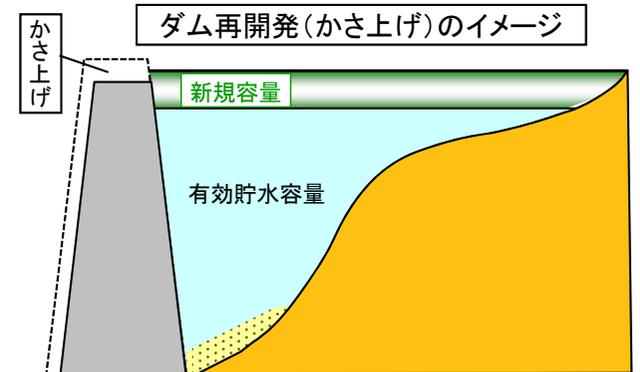
### ■ 概算コスト

約6,900億円

〔容量万m<sup>3</sup>当たりコスト〕  
約107百万円/万m<sup>3</sup>

## 【検討を進める案】(対策案2:ダム再開発(かさ上げ))

■ 既設3ダムのかさ上げにより、必要量を確保。



### ● 必要量確保の基本的な考え方

- ・集水面積の大きさによる流水の貯留等の効率性、重力式などのダム形式等から既設ダムを選定し、組み合わせ。
- ・大井ダム、笠置ダム、秋神ダムを選定。

※選定ダムは、流水の貯留等の効率性から、木曾川本川のダムを優先的に確保。

※コストには、工事期間中における既設ダムの発電運用や関係者との調整等は含まず。

### ■ 必要量

約5,200万m<sup>3</sup>

### ■ 概算コスト

約2,400億円

〔容量万m<sup>3</sup>当たりコスト〕  
約46百万円/万m<sup>3</sup>

# パブリックコメントで頂いた河道掘削の提案について

■河道掘削の提案については、河道内を掘削のうえ流水を貯留できる施設整備と既設ダムのかさ上げとの組み合わせにより必要量を確保し、コスト比較から現在立案している対策案2「ダム再開発(かさ上げ)」により検討を進めます。

- ・河道掘削については、確保できる容量が、新規利水に必要な量の約1/19(約100万m<sup>3</sup>)となり、【概算コスト: 約2,600億円】
- ・かさ上げについては、既設3ダムのかさ上げにより、必要量を確保。【概算コスト: 約2,400億円】

## 【位置図】



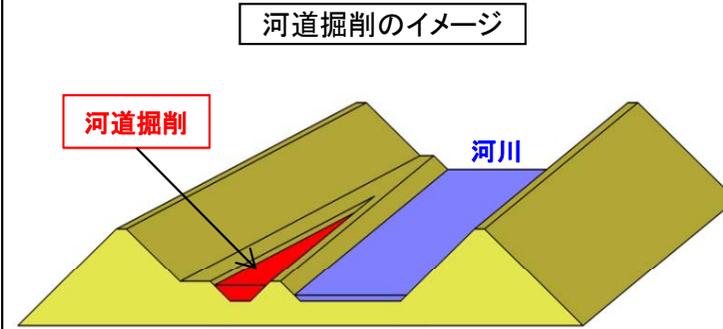
□かさ上げ対象ダムの諸元

| ダム名  | 形式  | 集水面積                 | 湛水面積  | 有効貯水量                 |
|------|-----|----------------------|-------|-----------------------|
| 笠置ダム | 重力式 | 2,301km <sup>2</sup> | 109ha | 6,475千m <sup>3</sup>  |
| 大井ダム | 重力式 | 2,055km <sup>2</sup> | 141ha | 9,250千m <sup>3</sup>  |
| 秋神ダム | 重力式 | 83km <sup>2</sup>    | 73ha  | 16,976千m <sup>3</sup> |

※ダム諸元の表示は、四捨五入値

## 【頂いた提案】(河道掘削+既設ダムのかさ上げ)

■河道掘削により流水を貯留できる施設整備と既設3ダムのかさ上げとの組み合わせにより、必要量を確保。



- 必要量確保の基本的な考え方
  - ・河道掘削のうえ流水を貯留できる施設整備により確保できる容量は約100万m<sup>3</sup>。
  - ・集水面積の大きさによる流水の貯留等の効率性、重力式などのダム形式等から既設ダムを選定し、組み合わせ。
  - ・大井ダム、笠置ダム、秋神ダムを選定。

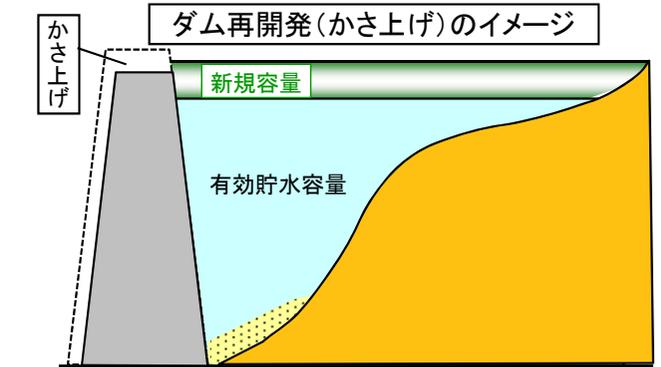
※河道掘削は、新規利水の取水が可能となり、既存施設に影響を与えない範囲。

※コストには、河川の流水への影響、自然公園等の景勝地、河川環境等への対応や関係者との調整等は含まず。

- 必要量 約5,010万m<sup>3</sup>
- 概算コスト 〔容量万m<sup>3</sup>当たりコスト〕 約2,600億円 〔約52百万円/万m<sup>3</sup>〕

## 【検討を進める案】(対策案2:ダム再開発(かさ上げ))

■既設3ダムのかさ上げにより、必要量を確保。



- 必要量確保の基本的な考え方
  - ・集水面積の大きさによる流水の貯留等の効率性、重力式などのダム形式等から既設ダムを選定し、組み合わせ。
  - ・大井ダム、笠置ダム、秋神ダムを選定。

※選定ダムは、流水の貯留等の効率性から、木曾川本川のダムを優先的に確保。

※コストには、工事期間中における既設ダムの発電運用や関係者との調整等は含まず。

- 必要量 約5,200万m<sup>3</sup>
- 概算コスト 〔容量万m<sup>3</sup>当たりコスト〕 約2,400億円 〔約46百万円/万m<sup>3</sup>〕

# パブリックコメントで頂いた日光川からの導水の提案について

■日光川水系の水利利用の提案については、河道外貯留施設と導水施設との組み合わせにより新規利水の取水を可能とし、コスト比較から現在立案している対策案5「利水単独導水施設」により検討を進めます。

- ・日光川の利用については、日光川水閘門の運用実績より、新規利水を安定的に取水できる延べ日数が年間月数の約10/12で、河道外貯留施設との組み合わせにより、必要量を確保し、木曾川へポンプ圧送により導水。【概算コスト：1,200億円】
- ・利水単独導水施設については、徳山ダムで確保される利水容量を、木曾川へ自然流下により導水。【概算コスト：700億円】

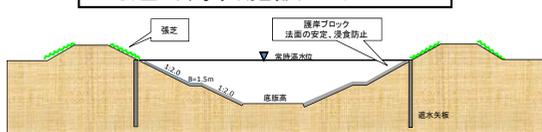
## 【位置図】



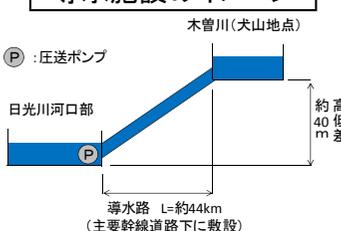
## 【頂いた提案】(日光川の利用) + (河道外貯留施設) + (導水施設) 【検討を進める案】(対策案5: 利水単独導水施設)

■日光川及び下水処理場の処理水再利用と合わせ、日光川河口部において、河道外貯留施設と導水施設との組み合わせにより、必要量を確保。

### 河道外貯留施設のイメージ



### 導水施設のイメージ



### ●新規利水取水の基本的な考え方

- ・日光川水系の下水処理場の処理水(約0.5m<sup>3</sup>/s)を含め、日光川河口部より取水。
- ・河道外貯留施設を追加し、組み合わせ。
- ・導水施設は、地形上日光川河口部から主要幹線道路の地下を通るルートでポンプにより圧送。

※河道外貯留施設の規模は、日光川水閘門の近10ヶ年(H16~H25)の操作実績を基に算定。  
 ※コストには、圧送ポンプの維持管理費等を含む。  
 ※流水の連続性に関しては、日光川以外の河川や藤前干潟、用途に応じた水質対策、関係者調整等を含みません。

■概算コスト (うち、施設維持管理費)  
 約1,200億円 (約460億円)

■徳山ダムで確保される利水容量を、導水することにより、必要量を確保。

### 利水単独導水施設のイメージ



### ●新規利水取水の基本的な考え方

- ・徳山ダムで確保される利水容量を水源。
- ・導水施設は、揖斐川から木曾川の犬山地点へ自然流下。

※コストには、維持管理費等を含む。  
 ※導水施設は、環境への影響を回避・低減するために必要な、環境保全措置等は含まず。

■概算コスト (うち、施設維持管理費)  
 約700億円 (約110億円)